

## 平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年5月8日

代表者 加藤 亮介

研究課題名	映像制作型 PBL(Project Based Learning)を通じた「社会人基礎・心力」養成の実践・評価モデルの提案
研究期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
共同研究者	東畑 開人

## 1. 今年度の研究概要

**研究目的**

本研究は、コンテンツ制作型のプロジェクト学習(以下 PBL)の実践プロセスを「社会性」と「心」の二つの観点から分析・評価することで、その二つの課題を達成しうる効果的なプログラムの開発を目指すものである。

**意義・重要性**

近年の高等教育は「知識・技能」の習得に加え「社会性」の育成を重視するに至った(高大接続答申2007)。そして、それらの解決策の一つとしてアクティブラーニングが盛ん議論され、それらを取り巻く方法論、能力概念、評価指標等について知見が蓄積されつつある。

しかし、近年の新社会人の早期離職、うつ病の増加などを鑑みれば、現行の能力概念にも記述がある「心の管理能力」の育成については充分とはいえない。そんな中、本研究は、「他と関わる」ことが必須の PBL 型プログラムが本質的な「心の管理能力」育成フィールドであると捉え、教育学と臨床心理学にまたがる学際的研究を行い、効果的なプログラムの開発を目指すものである。

**29年度の研究概要**

昨年度は、「社会人基礎力」育成のためのプログラムの「有効要素」の抽出と、PBL 参加学生の「感情の把握」に重点を置き、複数回の PBL 実践を行った。具体的な取り組みを下記に示す。

①研究代表者が2014年度より行う映像制作・発信型の PBL プログラムを基礎とし「社会人基礎力」育成に焦点化した実践を複数回行った。そして、PROGテスト、活動記録シート、インタビューにて収集したデータを活用し複合的な変容分析を行った。結果として、「社会人基礎力」育成に対する、一定の有効要素の抽出を実現し、簡易プログラムモデルを構築に至った。

②①の簡易プログラムモデルを元に、更に下記2回の PBL 実践を行った。

A.心理アセスメント(YG テスト)によるチーム分類を前提とした映像制作型 PBL 実践

B.事例研究を行うことを前提とした、合宿形式の紙媒体制作型 PBL 実践

これら実践から、「社会人基礎力」、「心の管理力」育成を促す、効果的なプログラムを構築するべく、多彩なデータ収集を行った。

## 2. 研究の成果

### 29 年度の研究成果

29 年度の主な研究成果を下記に示す。

①2014 年より本学にて継続してきた映像制作・発信型プロジェクトを PBL 要件(溝口 2016)に従い再整理、参加学生の変容分析、プログラムの有効要素の抽出を終え、プログラムのモデル化を行った。

これについては日本教育情報学会年会(本年度 8 月 芦屋大学)にて報告を行い、それ先行して本年度 6 月に「十文字学園女子大学 紀要」への投稿を行う。

②上記のモデルを反映した簡易プログラムを他大学(6-7 月)にて展開し、その際、心理アセスメント(YG 性格診断)を導入し、「性格的素地」が PBL 参加に与える心理的影響についてのデータを得た。

また、合宿による PBL 実践においては、事例研究メソッドにより、PBL 参加プロセスにおける心理変容を精緻に捉えデータを得た。

これらのデータに関して現在分析中であり、学生相談学会年会(本年度 5 月中部大学)にて中間報告を行う予定であると共に、共同研究者と共に本年度中に「学生相談研究」への投稿を予定している。

## 3. 研究成果の公表実績・予定 (年月日、方法)

2017.10

十文字学園女子大学 紀要(投稿中)

「社会的コンピテンシー育成を目指した映像制作・発信型プロジェクト学習モデルの検証」

加藤亮介・安達一寿

2017.8.26

日本教育情報学会 年会 一般発表(芦屋大学)

「コンピテンシー育成を目的とした映像制作・発信型プロジェクトの実践と評価」

加藤亮介・安達一寿

2017.5.21

日本学生相談学会 年会 シンポジウム発表(中部大学)

①研究代表者「アクティブラーニングにおける心の支援 -新たな枠組みの必然性-」

加藤亮介・東畑開人(十文字学園女子大学)・森田健一(帝塚山大学)

②共同研究者「一般学生による学生への逆転移-プロジェクト・ベースラーニングの経験から-」

東畑開人・加藤亮介・森田健一

③共同研究者「主体的行動を促すための支援のあり方-学生に相談させるための支援者の挑戦-」

森田健一・東畑開人・加藤亮介

2017.4.

官学連携事業 映像制作・公開

「埼玉県庁 彩の国はたらく情報館」埼玉中小企業映像制作・公開

<http://www.ecity.ne.jp/hataraku/movie.asp>

※映像制作・発信型 PBL 実践の成果物の一部、2016 年度の連携事業

加藤亮介研究室・メディアワークショップ

## 平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	
研究課題名	映像制作型 PBL(Project Based Learning)を通じた「社会人基礎・心力」養成の実践・評価モデルの提案
研究代表者	加藤亮介
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	東畑開人

## 1.研究成果取組状況

## (1)国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	<p>1.加藤亮介・安達一寿,「コンピテンシー育成を目的とした映像制作・発信型プロジェクトの実践と評価」, 2017.8.26, 日本教育情報学会 年会 一般発表(芦屋大学)</p> <p>2.研究代表者「アクティブラーニングにおける心の支援 –新たな枠組みの必然性–」,加藤亮介 東畑開人(十文字学園女子大学) 森田健一(帝塚山大学),2017.5.21, 日本学生相談学会 年会 シンポジウム 発表(中部大学)</p> <p>同シンポジウム共同研究者参加 「一般学生による学生への逆転移-プロジェクト・ベースラーニングの経験から-」,東畑開人・加藤亮介・森田健一 「主体的行動を促すための支援のあり方-学生に相談させるための支援者の挑戦-」,森田健一・東畑開人・加藤亮介</p>	
発表予定		

## (2)雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済	加藤亮介・安達一寿,「社会的コンピテンシー育成を目指した映像制作・発信型プロジェクト学習モデルの検証」, 2018.3, 十文字学園女子大学紀要 投稿済	
投稿中 投稿予定	加藤亮介・東畑開人・森田健一,「アクティブラーニングにおける心の支援 –新たな枠組みの必然性–」,学生相談研究,2018 年度,投稿予定	

(3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	
出版予定	

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名